

2024.6.13 (木)
第 45 回例会
(通算3760回)

2023-2024 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「地域を愛し、未来を語る ロータリーの輪を広げましょう」

第85代会長 後藤 公貴
副会長 樋口 貴広
幹事 佐藤 貴之
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 ミツ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 ☎ 0154-24-0411

2023-2024 年度
国際ロータリーテーマ



世界に希望を生み出そう
2023-2024 年度
RI 会長 ゴードン R. マッキナリー
第 2500 地区ガバナー
鶴見 誠一郎 (紋別港 RC)

月間テーマ	ロータリー親睦活動月間
本日のプログラム	一年を振り返って総括 {三役・副幹事 挨拶} (理事会)
次週例会	一年を振り返って総括 {四大委員長 挨拶} (理事会)

- ロータリーソング：四つのテスト ■ソングリーダー：白幡 博君
- 会員数 103 名
- ビジター
- ゲスト 釧路警察署生活安全課生活安全係警部補 原 静華様

会長の時間 後藤 公貴会長



皆さん、こんにちは。今日の例会は下期を振り返る例会です。後ほど、たっぷり話す時間がありますので短めに会長挨拶をさせていただきます。

ロータリーのこれから、ということでひとつだけ。皆さん、ご存じでしょうか。2024-2025 年度、こちらで言うと、釧路北ロータリークラブから佐渡ガバナーが輩出される年になるのですが、この年から R I ・国際ロータリーの「会長テーマ」と「ロゴマーク」が廃止をされるそうです。今年で言うと「世界に希望を生み出そう」と「マーク」が今年で廃止されることが今年の規定審議会で決定をされたそうです。理由については、おそらく、より長めのスパンで国際社会のこと、地域社会のことを考えて行きましょうという継続性を持たせた活動に重きをおいたというのが R I の基本的考え方と思っています。そこで、先ほど、次年度のためのクラブ協議会が行われましたが、高橋エレクトの元に『三カ年の目標と計画に関するお願い』が R I と 2500 地区から来ております。これについては、2024 年度から国際ロータリーでは 3 年間の目標と計画 (3-year Rolling Target /

Plan) が実施されるということで、「ローリング・ターゲットは 1 年ごとに大きな目標に見直しをかけながら初期の初志貫徹を達成しましょう」と。そして、「国際ロータリーは従来の単年度ごとの目標設定から複数年の目標設定に切り替えて、継続性という指標によってクラブの拡大や地域に根差したクラブ文化の醸成を目指す取り組みを始めます」となります。

そこで、先日、高橋会長、パストガバナーの皆さん、そしてノミニーも含めた中で話し合いを持たせていただきました。

われわれも 3 カ年の計画を実施しよう。ただ、国際ロータリーに迎合するのではなくて、わがクラブの特性・特徴を生かして、いかに地域に根差した活動をわれわれが行っていきけるか、に重く着眼点をおいて進めて行こう、と決定されました。

私の年度に関して言えば、私の年度活動報告書を皆さまにご提示させていただく時に、私なりに私の考えたこの中長期のビジョンを皆さまにお示しをしたい。その前に、皆さまにお諮りをしたいという手続きを今後とってまいりますので、皆さまの中で、このクラブをどうしたらいいか、この地域をどうしたらいいのか、わがクラブとして何ができるのか、のご教示があれば私にぜひ教えていただいて、反映をさせていただきたいと考えております。

今週を入れて、あと 3 回の命と私はなっております。後ほど、活動報告の中でもう少し突っ込んだ話をさせ

ていただきます。今日も皆さんと一緒に有意義な時間を過ごしてまいりたいと思います。本日も一日、どうぞよろしく願い申し上げます。

幹事報告 佐藤 貴之幹事

皆さん、こんにちは。こちらの川合さんの追悼誌が出来上がりました。皆さまのパーソナルボックスに入れておりますのでご確認をお願いいたします。

パーソナルボックスが若干、満杯の方がおります。今年度がそろそろ終わりますので整理のほう、よろしくをお願いいたします。

振込詐欺撲滅について

釧路警察署生活安全課生活安全係警部補 原 静華様



詐欺については毎日のように、新聞記事やテレビニュースなどでご存知の方も多と思います。

今までは特殊詐欺

と呼ばれる、電話がかかってくる「オレオレ詐欺」とか、払い過ぎた医療費が戻って来るような「還付金詐欺」、これを特殊詐欺と言っていましたが、8割の方が65歳以上の高齢者で、7割が女性という状況で、高齢の方が被害に遭っていたのですが、「SNS利用」という犯罪が急に増えてきて、被害者は幅広い世代に広がりました。

「私は絶対に騙されない」とか「私は騙されても相手に渡すお金がない」という考えは持たれないようにして注意していただきたいと思います。

犯人は時代の流れに合わせて、詐欺の手口をどんどんシナリオを変えて、ホントによく考え付くなどという形で相手をだましていきます。話を信じてしまうと、だまされる側は、その人の言うことを聞くしかないという心理状態に陥ってしまって被害に遭われています。

特殊詐欺は20年以上も前から発生していて、時代とともに少しずつ手口を変化させて発生し続けている犯罪です。警察のほうでも犯人を検挙することはもちろん、様々な対策を講じておりますが、いまだに発生が止まらない状況です。

SNS型の手口は、携帯でもパソコンでも、「広告バー」がいきなり流れて来てSNSから誘導されて、グループなどに誘導されて投資の話となり、SNSを利用して親しくなっていきます。親しくとは言っても実際に会ったことのない人に対して投資話を持ち掛けたり、恋愛感情に付け込んでくるような手口です。SNSで相手方を信じてしまって、投資の場合は現在の状況を画面上で、グラフで実際に利益が増えているか

のように、配当があったように、見せられることで信用してしまいます。

SNSでお金の話とか身に覚えのない支払いと思えば警察の専用電話「#9110」に電話をかけていただいて、ご相談をお願いしたいと思います。貴重な時間をいただき本当にありがとうございました。

■本日のプログラム■

一年を振り返って（三役・副幹事 挨拶）

後藤 公貴会長

私をこのクラブの会長にご推挙いただきましたクラブメンバーの皆さまに心から感謝とお礼を申し上げます。間もなく終了



ということで、本当に感謝しかないので。ただ、振り返りということですので、駆け足になりますが少しだけ振り返りをさせていただきたいと思います。

まず、会長を打診された時のことから振り返りました。2021年の夏の終わりころ、当時の杉村会長からご連絡をいただいて「ちょっと、話がある」ということで当店にご訪問をいただきました。まさか貧乏な私に土地を買えというような話ではないな、と思いながら何の話だろうとホントに分かっていなかったのです。まあ、「会長をしなさい」というようなお話がありました。当然、即答は避けて、後日の早い段階でご連絡を差し上げます、としてその日の話は終了いたしました。

2021年というコロナ禍の真ただ中で、2020年の2月に最初の発症から1年経っても出口が見えなくて、わが業界と当店もご多分に漏れず売上げが5割から6割も一と下がり続けておりました。2年後の会長をいま受けてたどり着けるのかとも思っておりました。私は50歳になったばかりで、まだまだ若輩で、諸先輩を前にしてそんな大役は受けられないとして、妻には「残念だけれど、断ろうと思っている」と話しました。すると、ノ一天気というか、楽観的というか、前向きというか、「どうせ、1回2回断っても、怖い大人たちが毎度来て、あなたは絶対受けるから。絶対やらなければいけないから。どうせ、やらなければならないのならニッコリ笑って返事してきなさい」と言われたのです。「お店は私が守るから大丈夫だよ」と言われたのです。

実は、某青年団で10数年ほど前に、理事長をやらせていただいたときも似たようなことがありました。悩んでいたところ、「あんたが1年半、入院したことにしてあげるから。私が従業員と一緒に店を守る

よ」と同じようなことを言われたのです。

ホントにありがたかった。そして一生、頭が上がらない状況になって、受けさせていただきました。そして、私にはもったいない副会長、幹事、そして理事の皆さまをご承諾いただいてスタートさせていただきました。

私は、会長方針の中に3つの大きな柱を立てさせていただきました。親睦と交流事業の充実、会員拡大と退会を減らそう、そして例会と奉仕事業の充実の3つの大きな柱を立てさせていただきました。総じては私のスローガンにあるように、われわれのクラブのスケールメリットを生かして、われわれのクラブが地域に対して何ができるのかを真剣に語り、真剣に考えて行こう、という目標を立てさせていただきました。

今日まで通常例会が31回、夜間例会が12回、移動例会が2回となり、本日45回目の例会を迎えさせていただいております。親睦事業については「岸壁炉ばた」で行われた野遊会、そして地区協議会とか地区大会における「釧路ナイト」で皆さんと大いに盛り上がらせていただきました。奉仕事業については、第7分区に全面的に運営にご協力いただいた「全道中学親善硬式野球大会」と、4年ぶりに地区補助金を活用したわがクラブの事業となった「青少年奉仕事業・釧路湿原の魅力を再発見する学びのツアー」と第30回目となった「釧路ロータリーカップ・アイスホッケー大会」、このような奉仕事業を実践させていただきました。

それぞれの委員会と個人的に皆さまのご講話を賜ったりして、皆さんにこのクラブのために一生懸命にご尽力していただいたことには、冒頭に話させていただきましたとおりに、感謝しかございません。

ひとつだけ皆さまにお伝えしてお礼をさせていただきたいことは、クラブ会報・雑誌委員会の皆さんに対してです。本年度、沢田委員長がここまで率いていただいておりますが、スタート直後、直前でしたか、委員長になられる方が退会をするというアクシデントに見舞われながら、そして少ない委員会メンバーの中で、ここまで広報活動・会報作成活動に尽力していただきました。皆さまがご存知のとおりと思いますが、もう2週間経たないうちに、例えば、今日の例会が会報にアップされているわけです。僕は、こんなに早いのは記憶にないのです。なので、私が、あの時に何を言ったのかな、どんな考えだったのかと思ったことが直ぐに、ある意味、私たちがリアルタイムで調べられる感じになっておりました。この場をお借りして、他の委員会の皆さんにはもちろん、感謝を申し上げておきます。ここで、取り立ててクラブ会報・雑誌委員会の皆さまには心から感謝を申し上げます。

そうは言っても、まだまだ私たちの担いが終わったわけではありません。これから今年度の決算をしなけ

ればなりませんし、冒頭の会長挨拶でも話しましたが、これから90周年、100周年を迎えるに当たって、わがロータリークラブは少し先のこと、少し未来のことを真剣に考えて行かなければいけないと思っています。その中で、このクラブの中長期的なビジョン・指針を私なりに作成させていただいて活動報告の中に盛り込んでいきます。R Iが提唱する3カ年計画というものを、どういう形になるか分かりませんが、クラブの皆さんがご納得いただける形でなんとかご提示をさせていただくべく、高橋エレクトそして荒井ノミニと協議を重ねてまいりたいと思っております。

また、それを進めて行くためには、お金が大変大事です。冒頭に積立金の今の状況を佐藤幹事から伝えておりますが、たくさんお金があるなど思っていたら大間違いで、90年、100年、われわれのクラブがこの地域に爪痕を残す、足跡を残す形で考えて行くのであれば、まだまだ足りないお金かなと思っています。そして大事なことは、今どれだけお金が残っていて、いま何に使えるか、これは何に使うべきお金をきちんと把握して皆さまにお伝えするのが三役・執行部の責務だと僕は感じています。なので、今ある会計のルールや仕組みをもう一度見直して、例えば、通帳もいろいろな積立で分かりにくい状況にありますから、整理整頓していく作業をわれわれの年度の三役を中心にして、ここ数年の会計、若しくは会計監査に携わっていただいている甲賀君にも事務所を含めてご協力を願って、整理整頓をして私たちの決算の時に皆さまにしっかりご提示をさせていただく、誰が見ても、誰がやっても分かりやすい会計の仕組み・ルール作りをしてまいりたいと思っております。この辺のところは皆さまにご理解・ご納得をいただきたいと思っております。

私自身は、自分の成長をテーマに、これまで自分なりに頑張ってきたつもりではあります。また、年当初には、僕ですから頼りなく見えてもそれは仕方がないので、頼りにならないような言動や行動は慎もうと思って、これまで頑張ってきたつもりです。一方で、私と佐藤幹事は、今いる103名のメンバーの誰よりも今年に関しては、このクラブのことを考えて来たつもりです。ぜひ、その評価、また今年一年を振り返って皆さまに、ここはこうだったよ、ああだったよ、という指摘はぜひキャンドルパーティーの時に一杯飲みながら、いただきたいと思っておりますので、最後の最後まで頑張っている所存でございます。

本当に、冒頭に申し上げたとおり、皆さまのご協力なくしては、こうしてこの場に立っていることもできなかったらと思うしております。そして、最後の最後の6月30日には、ああ、後藤にやらせて良かったな、と思っただけのように残りの数週間を過ごさせていただきたいと思っております。

ぜひ、キャンドルパーティーで美味しいお酒を皆さ

んで飲みましょうということで、少々長くなりましたが私からのお話とさせていただきます。本年一年、大変ありがとうございました。

石井 孝行副幹事



副幹事の石井です。後藤会長の後にスピーチするのはホントにつらい、私は薄っぺらい話しかできないものですから、当然に

も差が出てしまいます。

私は先ほど数えたら入会して2年9カ月、3年弱です。副幹事として一年を振り返ってみると、ロータリークラブに入会してという振り返りくらいの短い期間でございます。入会した時は、親睦活動委員会、2年目は親睦活動委員会、3年目に後藤会長より「副幹事をやってくれないか」と会社に来ていただき、即答させていただきました。次年度は、親睦活動委員会。そっち方面の人事で大いに身の引き締まる思いでございます。

1年前に、会社の後藤会長と佐藤幹事に来ていただいて、「当然、仕事を第一に優先しながら、できる限りの副幹事としての活動を行ってくれないか」ということでした。最初は不安でしたけれど、断る理由も正直ありませんでした。なるべく前のめりで参加して行こうという自分の思いもあったものですから、その場で「はい、YES」と回答させていただきました。

実際に1年間、副幹事としての職務はあまり表に出ることはないのですが、俯瞰で会を見ることができるよう、ロータリークラブの1年間の一通りの流れが副幹事しているとよく見えるよと言われておりましたので、いま思い返すと全くそのとおりだ、という印象です。

最初は、ロータリー用語が分からなくて、アルファベットも多すぎて、杉村さんからは「それは、英語を知らないだけだぞ。それは英語をくっつけているだけだから、勉強が足りないだけだぞ」と言われ、お恥ずかしい思いをしたのを覚えています。

副幹事として藤井さんとともに一年間進んで来たのですが、藤井さんとはとても縁がありまして、入会が同期・同日入会です。家も近くて、藤井さんは先輩ですけど同じ小学校・中学校という縁もあります。子どもたちが同じ学校にいて、PTAの役員も同じ年にやっています。その時、木下さんも学校にいらしています。そういう縁もありまして副幹事を二人で務めることも、これも何かの縁なのかなと感じました。当然、僕も毎回出席できなかったものですから、いない時は藤井さんをお願いしたり、議事録を担当してもらったり、お互いに協力しながら今日まで来られたのかなと

思います。

薄っぺらい話ですが、この辺で終わります。一年間、どうもありがとうございました。

藤井 敬亮副幹事

副幹事の藤井です。一年を振り返ってですけれど、この一年、私の不在の時には「おんぶにだっこ」だったのですけれど、石



井副幹事、そして佐藤幹事、樋口副会長、何よりも私をこの執行部に引き立ててくださいました後藤会長には深くお礼を申し上げる次第です。

日ごろ私は、過ぎたことはどんどん忘れて行くタイプですので、昔のことを思い起こすのが苦手です。いま振り返ってみますと、1年と少し前に後藤会長と佐藤幹事がお寺にまいりまして、「副幹事を務めてくれないか」ということでした。私も、そのころはコロナが5類になることは決まっていたころでしたが、まだなっていなかった。これから仕事や活動も活発になるかという時でした。忙しくなるのだろうとは思っていましたが、私自身、釧路ロータリーに馴染みたいという思いがありましたので、ここで断ってはいつまでたっても馴染めないと思い、「できる限りやります」と受けた次第です。

いま思えば、その時の判断は間違っておりませんでした。ホントにいい判断だったなと思っております。この一年間で少し釧路ロータリークラブが分かってきたように思います。

10年も前ですが、娘が中学生の時に「パパは、お寺というチャリンコを運転して漕いでいるのだよ。その後ろにお寺の人やお前たちみんなが付いて来ている。自転車を漕ぐのをやめたら止まってしまうし、道を間違えたら迷ってしまう。だから、パパは前を向いて運転しなければならないのだ」と、話したことを覚えております。ここにいる皆さまは、そういう方々だと思わせていただきます。

このロータリーに馴染むということは、私自身が皆さまから勉強をさせていただくことだと思います。ホントにこの一年間は全く役に立ったとは思っておりませんけれども、皆さま、先輩方の姿を学んでまいりたいと思うことであります。

本当に一年間、関わらせていただきまして、皆さまにお礼を申し上げますと同時に、これからも見捨てることなく、どうぞ皆さま、一緒にお付き合いいただきまして、私も頑張りますのでこれからもよろしく願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

木下 正明会計



シーンとしていて話しにくいのですけれど、本年度の会計を務めました木下です。会計が話すことはあまりないのかなと思

いますが、なぜかな。私は短めに。

本年度の会長、幹事、副会長が若い三役でして、会計は理事会からすると10 枠があるので少し年寄りみたいな経験者を入れておけばアドバイスもないのですけれど、そこを期待して私が入ったのかなと思うところです。

私は、一年間、時間があつたらこれを話したいというのがありました。どなたかが言っていたらごめんなさい。この三役は全員に「貴い」という字が付くのです。公貴さん、貴広さん、貴之さん。貴を抜かすと、公、之を広めると書いてあります。これというのは、後藤会長が「地域のために何ができるか」「このクラブで何ができるか」に通じることで、元々、この三役がセットされた時に決まっていたのではないかと思うところです。

三役って、どういう内閣かを毎年言うのですが、僕の時「マス男さん内閣」と言って、全員が奥さんの実家を継いでいる、そういうタカリみたいな三役だったのです。親睦委員長が工藤さんで、タカリの4人がキャビネットを作って、みんなが堅実で地味を地地といったようなキャビネットでした。

今年はこの、公を広めるといふ内閣で地域のため、そして後藤さんは、いろいろな課題をアグレッシブに確実に解決して行く素晴らしい一年だったと思います。

身内の振り返りなので、ダメでしたというのも言った方がいいのですが、会計としては頼もしい三役でした、ということで終わらせていただきます。お疲れさまでございました。

佐藤 貴之幹事



幹事の佐藤です。最後の時間調整で、あまり時間がありません。本当は後藤会長のことで話したいことがたくさんあります。

先ほど、後藤会長のお話で、杉村さんからお話があった時、即答しなかったみたいな感じで後藤会長は仰っていましたが、私が後藤会長から幹事をお願いをさ

れた時は、「お前は断らないよな」みたいな感じで、「ちょっと待ってください」という雰囲気は一切ありませんでした。私も後藤会長と同じ飲食店でしたので、当時はホントに売り上げが下がって、ロータリークラブに入れるかどうか分からない状況でした。でも、後藤会長はそのような感じで、というのが、私が幹事になる時のいきさつでした。

今年度は、後藤会長の口癖として、口癖というか私を感じていたことですが、「よし、それは今年度で終わらせよう」とか「よし、それは今年やろう」とか、とりあえず全部やろうと常に仰っていた感じがしました。

少し写真を見直したら、私たちの予定者理事会があった時は、まだマスクをしてアクリル板があった時期でした。皆さんもう忘れているかもしれませんが、私たちが予定者の時はまだそういう時期でした。それが、今年度は通常になるから、全て今年度で再開して通常運転をやって行こうというのが当時の後藤会長の意気込みでした。

私としては、絶対に赤字にはしてはいけない、ただそれだけの活動をしておりました。常にいろいろなアイデアを出してくる濱口委員長には、「それは勘弁してください」とか「少しアイデアを使ってください」と返答してしまい申し訳ございませんでした。そういう一年間でした。

まだ2回あります。皆さま、最後までお付き合いいただき、なんとか赤字にならないようにやって行こうと思います。皆さん、一年間、どうもありがとうございました。